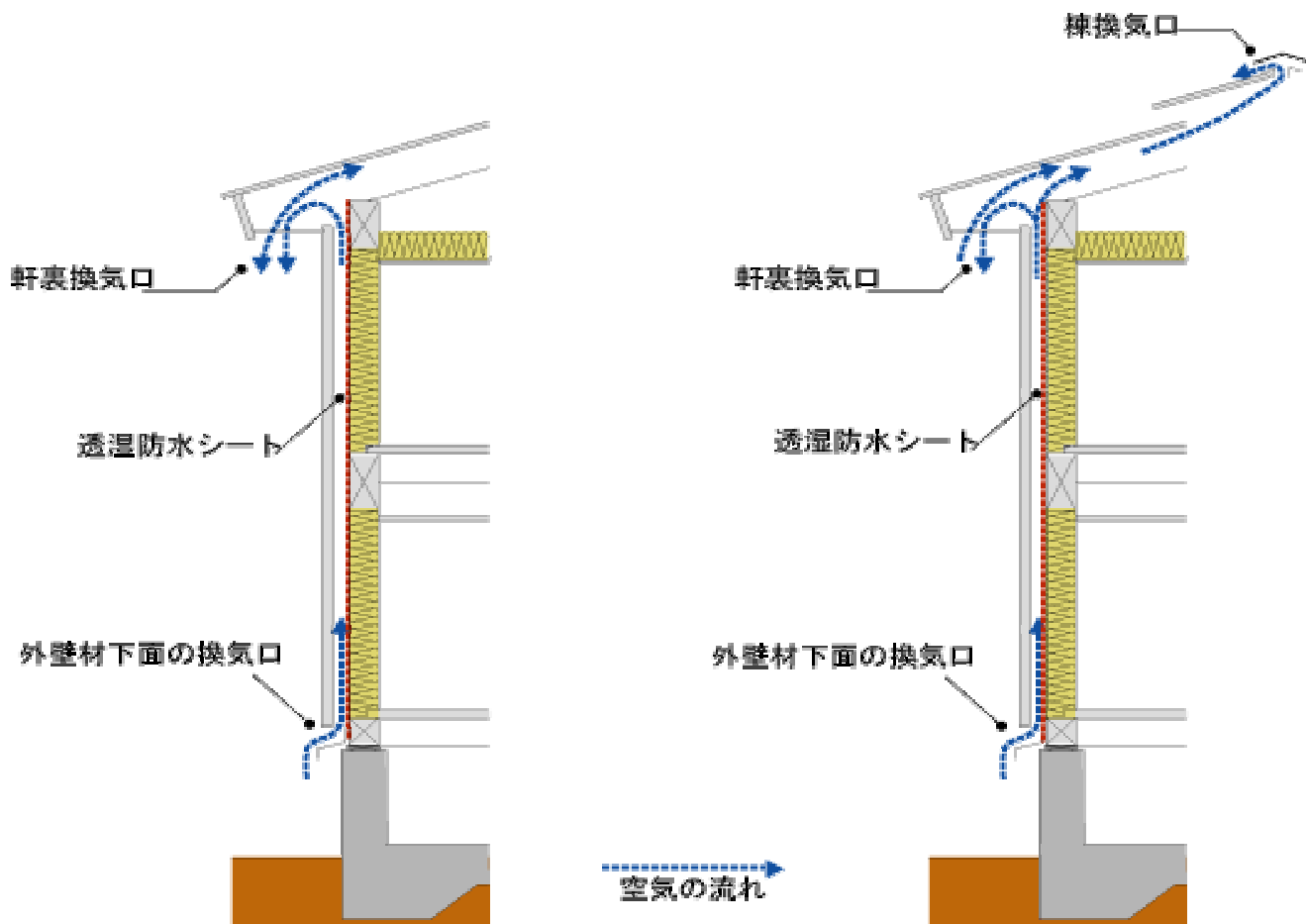


外壁通気工法の基本的な考え方

外壁通気工法の理屈は簡単です。

外壁の下と上に空気が通る層（通気層）を設け、壁内の水蒸気が出やすい透湿防水シートを貼るだけです。



■棟換気を取らない場合

外壁下の隙間から空気が入り、軒裏の換気口に向かって空気が流れる。

■棟換気を取った場合

外壁下の隙間から、軒裏換気口棟換気口に向かって空気が流れる。

- 空気が流れる道筋をつくるのが大原則。
- 空気は上下の温度差や、壁内の気圧の変化によって流れます。

■外壁通気工法は壁体内結露を防止し、耐久性を高める。

この発展系として、外断熱工法などでは、屋根にも通気層を設け屋根部分の内部結露を防ぐ方法もあります。

外壁材は雨を通さないのに、どうして湿気が入るのか。と疑問に思われるかも知れませんが、外壁材には材料のジョイント部分等々に微細な隙間があり、また、外壁材と行っても、材料そのものはわずかに呼吸しています。つまり、材料そのものからも湿気は通るのです。